

01 確かな学力

授業づくりの充実

教職員全体研修会(講師：山形大学教授)や小中各校の教職員が校内授業研究会の相互交流(講師：山形大学准教授)、示範授業一斉参観(講師：筑波大附小教諭)を招聘しての研修を深めながら「学び合い」を軸として小中一貫した授業づくりや授業改善に取り組んでいます。

総合的な学習の時間の充実

町では「ふるさと愛の醸成」を目標に掲げています。町内の豊かな教育素材(自然・文化・歴史等)を存分に味わえるふるさと学習に取り組めるよう、人的・物的なサポートや研修会を通して、先生も地域の素材を学ぶ場を夏季休業中に設けています。

配慮が必要な児童生徒への支援

町独自に特別支援教育支援員や特別支援教育アドバイザー、スクールソーシャルワーカー等を各校に手厚く配置し、相談やサポートが受けやすい体制を整えています。また、不登校児童生徒の居場所保障のために適応指導教室「友遊(ゆうゆう)スクール」を旧藤崎小に開設しています。

町の取り組み

学校支援のための人材配置

特別支援教育支援員	小学校：10名 中学校：6名
学校教育コーディネーター	学校統合・新校開校における支援
ICT支援員	ICT機器使用における支援
ALT	小学校：1名 中学校：1名 常時配置
スクールソーシャルワーカー	学校・保護者・行政の連携支援
特別支援教育アドバイザー	児童生徒に対する心理サポート
友遊スクール指導員	適応指導教室における学習指導・教育相談
地域湧く湧くコーディネーター	学校と地域をつなぐ支援：6名
スクールガードリーダー	登下校見守り活動のリーダー：2名
日本語指導教員	外国にルーツを持つ児童生徒の日本語指導
部活動指導員	10部活動に対して11名の指導員

遊佐町の学校教育

令和八年四月
遊佐町教育委員会
「ダイジェスト版」



遊佐小学校



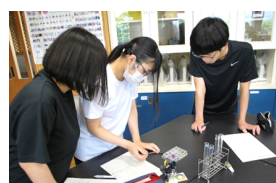
遊佐中学校

*令和5年度 遊佐町では5つの小学校が統合し、町内1小1中となりました

遊佐町の教育方針（学校教育）

- 乳幼児期の教育と子育て支援の推進
- コミュニティ・スクールの推進
- よりよい生き方を育む教育の推進
- 確かな学力を育む教育の推進
- 変化に対応する力を育む教育の推進

「第2次遊佐町教育振興基本計画後期計画」より



主な取り組み

主な取り組みを2つの力に分けてご紹介します。

確かな学力

変化に対応する力

02 変化に対応する力

外国語教育の充実

小中各校にALT(英語指導助手)が常駐しています。小学校高学年の外国語授業では、毎時間ネイティブな英語にふれることができます。中学校では、英語の授業だけでなく総合的な学習の時間等でもALTを活用した授業を行い、町内のジオパークや特産品を英語で紹介する活動を展開し、クルーズ船の乗客にPRする機会を設定しています。

ICT環境の充実と活用

個々の理解度に合わせた学習や、より効果的な協働的な学びを可能とする「学習クラウド」や電子黒板整備(小：9台、中：4台)等のICT環境の充実を図っています。また、ICT支援員が児童生徒だけでなく、教員の授業づくりをサポートしています。

夢や志を育むキャリア教育

ふるさとの先人に学ぶ場(町の四大祭学習)や複業先生(経済産業省事業)、希望の灯をともし会(シネマ東北との連携)等を通して、生き方について学ぶ多様な機会を設け、キャリア教育の充実を図っています。また、幼保小の交流活動や小中高連携活動(町内にある県立遊佐高校)等、授業以外の学びを通して、将来の進路選択に見通しを持つことのできる活動も行っています。

部活動地域展開

*国は令和5～7年度を「改革推進期間」と位置づけ
*遊佐町では1年間前倒しで部活動地域展開を実施

遊佐町では令和7年4月より休日部活動地域展開をスタートしました。そのため、これまでの部活動指導員の配置や部活動地域移行コーディネーターの配置等は継続し、今後も移行受け入れ先クラブ等の支援整備を推進していきます。